

令和6年度 大阪府立福井高等学校 第2回学校運営協議会

1 会長あいさつ

- ・学校の役割と学校外の役割の明文化について

2 校長あいさつ

- ・直近の学校の様子について

3 運営協議会委員・事務局員紹介

※参照 令和6年度 大阪府立福井高等学校 学校運営協議会委員

4 事務局より報告

資料番号	報告項目
1	教務部
2	進路指導部
3-1	活動支援部
3-2	地域連携
3-3	部活動
4	多文化共生
5	首席（広報・生徒指導等）
6	教頭（DX推進事業進捗）

5 質疑応答

【平野委員】

- ・学校幹旋についての出願方法はどうか
→出願方法については、デジタル化に動いていっている側面はある。一方で、手書きのメリットや手書きだからできる指導の仕方やよさがある。どちらも大切にしていきたい。
- 出願方法のみならず、学校の活動における Olihime などのデジタルの活用も非常に大事だが、福井高校がもっている対面のよさも継承して欲しい

【野口委員】

- ・オンライン出願の運用は中学校側も懸念している。施行期間にぜひ連携してやっていただきたい。
- ・デジタル採点について、システムが中学校側にも導入され、教員の採点業務負担の減少につながっている。
- ・中学校の教員にも福井高校の実践や体制を見て学んで欲しいと思っている。

【塩田委員】

- ・人と対面することで生まれる（対話することで生まれる）気持ちや温かい雰囲気や初めて知れることがある。

- ・今になっても、「人生は勉強」ということを学ぶことができる。
- ・「福井高校はすごい」「福井高校は多文化だよ」と宣伝している。浸透してきているように感じる。

【福田委員】

- ・顔を見てなにかをすることが本当に大切だと思っている。
- ・中学校の情報交換会に出てる中で福井高校の魅力やコスモスのことを発信していきたい。

【谷本委員】

- ・進学校の先生とお話する機会、地域とつながることの大切さや多様な生徒が今もいろんな世界にいるということを知ってほしいということを伝えた。
- ・懲戒指導も大切だが、1回の失敗は次への学びにしてほしいから、ぜひ寄り添ってもらえる先生がいてもらえたら嬉しい。
- ・チーム福井で多様な生徒を受け入れていってもらえている結果が、この退学者数の減少につながっていると感じる。

【勝部委員】

- ・生徒観を一致させて、「生徒は未熟なものだ」と受け入れてやることが大切。
- ・生徒とぶつかってくれるのはいいが、最後は受け入れるように指導していただきたい。
- ・学校が対応を求められる業務は増える一方で、先生たちは本当に大変。学校ではここまで、ということも世間に理解してもらわないといけない。

6 校長より

- ・提案：来年4月より水曜日ノークラブデー。生徒4時半下校、を実施していきたい。週末に公式戦があるなどといった特別な事情は別途考慮する。
- ・地域に大切にされる学校にもっとなっていきたい。
- ・今後、強みの発揮や弱みの改善、再編を行っていく所存。

令和6年度 大阪府立福井高等学校 学校運営協議会委員（敬称略）

番号	名 前	職 名
1	勝部 幸	元福井高校校長
2	平野 智之	追手門学院大学教授
3	野口 真代	「福井高校を育てる会」会長 茨木市立北陵中学校長
4	塩田 寛	福井地区自治振興会
5	福田 正幸	茨木市健康福祉部 支援員
6	谷本 紀子	本校PTA会長

事務局

番号	名 前	校務分掌等
1	村林 隆志	校長
2	山村 宏昌	教頭
4	曾根 康介	首席・生徒指導部長
5	水谷 雅哉	教務部長
6	川端 直子	進路指導部長
7	野村 達記	活動支援部長・地域連携主担

今後の予定 第3回 令和7年2月5日（水）10時～ [校長室]